

# アウトリーチ（訪問支援）研修

大宜味村教育委員会  
（一般社団法人アトリエみらい）

## ● 実地研修先

山梨県甲府市

「市民団体 多文化共生を考える会 ハート51」

実施日

平成25年8月26日(月)～9月6日(月)

1、 実地研修施設紹介

2、 実地研修内容

3、 実地研修で学んだ事

## 1 実地研修先紹介



## 「市民団体多文化共生を考える会 ハート51」

山梨県に在住するブラジル人やペルー人を中心に外国人と日本人の多文化共生をめざして、定住外国人が生活者として自立した普通の生活が送れるよう、日本語及び生活相談支援を実施。



## 「多文化ソーシャルワーカー」とは



外国人が自国の文化と異なる環境で生活することにより生じる心理的・社会的問題に対して、ソーシャルワークの専門性を生かし、相談から解決まで継続して支援する人材

○従来からある外国人相談窓口では、相談者自身が問題解決を図るよう  
に情報提供のみを行うのに対して、多文化ソーシャルワーカーは、専門  
知識や技術を活用し、相談者本人だけでなく、その人を取り巻く家族、  
コミュニティ、行政機関などにも働きかけ、適切な制度やサービスが利  
用できるよう個別支援を行う点が異なります。

○あくまでも問題解決をする主体は、相談者本人ですが、多文化ソー  
シャルワーカーは、ソーシャルワークの技術を用いて、相談者が抱えて  
いる問題の状況を把握し、相談者の意志や自立心を尊重しつつ、持って  
いる力や問題解決への意欲を引き出して、他者と連携して問題が解決あ  
るいは緩和された状況へ導くことを目指す。

## 2 実地研修内容

### 【多文化共生の理解】

・日本在住の外国人籍を持つ若者を取り巻く環境についての理解を深めるとともに、多文化共生ソーシャルワークについての概要と外国人支援についての活動内容を理解する。

山梨県人口総数	863,075人
山梨県外国人登録者	17,281人
山梨県在住ブラジル人	2,707人

(国勢調査 2010年)

## 【施設訪問】

### 「ブラジル学校 ガリレオ」

#### 概要

- ・小・中・高校生対象
- ・現在 児童・生徒 10名
- ・日本語・英語・ポルトガル語・数学の強化授業
- ・ブラジルのポリエドロ教育システムと提携。本国に帰国した後に学校へスムーズに転校できる。
- ・児童・生徒がいじめ等の問題で日本の学校を辞めてから通学開始



#### 課題

- ・利用者の数が減少しているため経営難。
- ・経営するための助成金はなく、月謝のみ  
→ブラジル人家族は生活困窮も多く。通学できなくなるケースも多い



### 「ブラジル学校・保育園イノヴェ学園」

#### 概要

- ・場所：南アルブル市
- ・
- ・経営難により廃校しかけた学校をH24年6月より現学園長が再始動
- ・新規事業として、幼児保育も開始。
- ・日本人スタッフ2名配置。 保育士・日本語教師
- ・ブラジル、フィリピン、ペルー、タイ国籍の0歳から小学生までの約40名が在籍



#### 日本人スタッフへの聞き取り

- ・保育士 Hさん

「言葉が全てわかるわけではなく、保育に関しては日本の保育と違うため、また文化も異なるため、今はこんな感じかなと合わせていくという感じで働いている。保育⇒小学校⇒中学校と教育の流れが出来れば問題も軽減されるのではないかな」



## その他 訪問先

- ・ 山梨県国際交流協会
- ・ 山梨県ボランティア協会
- ・ 山梨県教育庁社会教育課
- ・ 山梨県若者サポートステーション
- ・ 甲府市ボランティアセンター
- ・ 山梨県社会福祉協議会
- ・ 中央市役所 総務部政策秘書課

## 社会資源施設との繋がりでの学び

- ・ 各支援機関の外国人に対する支援と取り組みについて
- ・ 社会情勢や地域情勢等で変化する外国人の暮らし
- ・ 外国人籍の若者を取り巻く社会環境について
- ・ 不就学児童の就学における問題等
- ・ 生活困窮家庭の実態
- ・ 外国人籍の若者に対する居場所作りにおける施設利用についての動向
- ・ 社会資源施設の活用の実態、これから連携した取り組みへの可能性

## 【アウトリーチ】

○実地研修中に行ったアウトリーチ

- ・A君（16才）ブラジル人
- ・T君（17才）ペルー人
- ・Cさん（30代）フィリピン人

●活用した社会資源

- ・フードバンク、市立図書館、ファーストフード店、ブラジルレストラン

○アウトリーチを通して学んだ事

- ・日本に暮らす外国人にとって言葉の壁、制度の壁は生活ばかりではなく、心の問題にも繋がり、単なる相談支援のみだけではなく、いかに社会資源と繋げ、活用し自立支援が出来るかが重要である。

## 【外国人児童・生徒の不就学実態調査の方法】

市役所の3つの窓口から外国人児童・生徒の数字を洗い直し

	K都市
A 就学児童年齢外国人児童の登録数	24名
B 就学児童生徒数（小・中）	17名
C 児童手当受給者数（小・中）	20名

以上の数字から見ててくる実態

・ A（24名）－ C（20名）＝ 4名

※4名不明 ➡ 帰国の可能性

・ C（20名）－ B（17名）＝ 3名

※3名 ➡ 不就学

## ケース検討会参加

- ・ 電話相談でスタッフが関わっているケースの対応や社会資源、支援機関への繋ぐ為のやり取りの方法などを検討。電話での言葉の選び方、傾聴の具体的な検討をすることでスタッフのスキルの向上に繋がる。

## 3、実地研修で学んだこと



### 1 「多文化共生について」

日本で生活している外国人の生活環境、社会環境、外国人籍の若者の問題や現状についての理解。

### 2 「社会資源の活用及び連携の重要性」

アウトリーチを行い支援していくために、普段からの情報収集や、準備、社会資源との繋がりは必須であり、様々な問題に対処出来るようになる連携することが支援の幅を広げていく。

### 3 「国勢調査や学校基本調査等を利用した実態把握」

外国人籍の不就学の児童生徒数を知る為に統計を利用し、算出することで不就学の実態を予測し、把握することでアウトリーチへ繋げる。

### 4 「信頼関係の重要性」

対象者、対象者家族、関係支援機関等との良好な信頼関係を結ぶことでスムーズな支援を行う事が出来る。そのために個人間の繋がりを大切にし、丁寧な支援を行う。

研修生⑩

調布市こころの健康支援センター

## アウトリーチ研修

調布市こころの健康支援センターでの学び

平成25年度内閣府アウトリーチ

研修生

発達障害児・者及び支援家族の会